

表-5.3.3 安定度調査表(地すべり)

施設管理番号	N	*	*	*	C	0	0	1
部分記号								

要因(A)		着 眼		点		配点		評点	
項目						(30)	(30)	(30)	
地すべり形地	滑落崖、丘状地形、緩傾斜地、等高線の乱れ、河川などへの押し出し等の地すべり地形が認められる。			明瞭 やや明瞭 示明瞭		15 7 7	30 30 30	※	(A)
地質構造等	断層・破碎帶 火山灰質帶、温泉余土 流れ盤 噴出岩 貫入岩構造、キャップロック構造 その他					18 18 14 14 14 0	18 14 14 14 14 0	(B) (C) (D) (E) (F) (G)	(B) (C) (D) (E) (F) (G)
地質等	母岩時代 第三紀層(堆積岩) 第四紀層(未固結堆積物または堆積岩) その他(火成岩、火成岩等) あり(痕跡程度も含む) なし					7 3 3 0 0	7 3 3 0 0	(B) (C) (D) (E) (F)	(B) (C) (D) (E) (F)
水						10 0 0	10 0 0	(B) (C) (D)	(A)
								合計 (最大65)	

()は各項目の達成を示す

* たとえば複数の着眼点が選択された場合は、高配点のものを記入する。

履歴(B)	項目
地すべり	履歴
地すべり	兆候

(C)=MAX(AB)	要因からの評点	(A) 44 点	(B) 75 点	(C)=MAX(AB) 75 点
(A)と(B)の内、 大きい方				

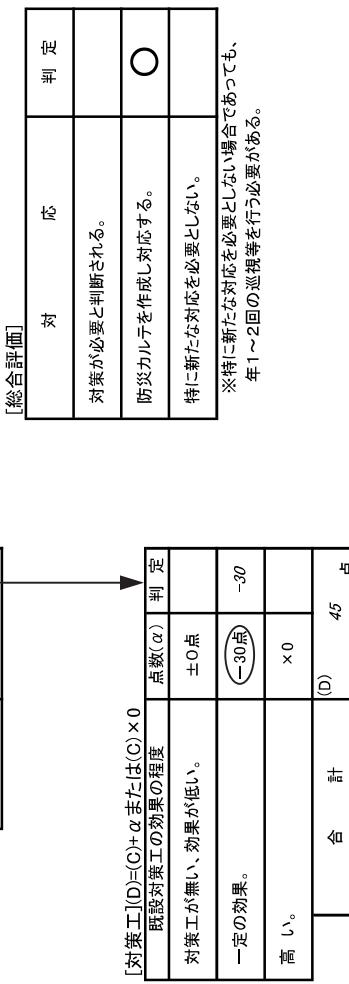


表-5.5.2 領所別記録表(土石流)記入例

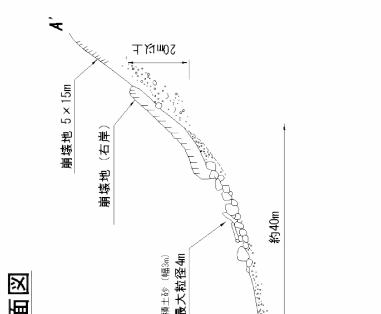
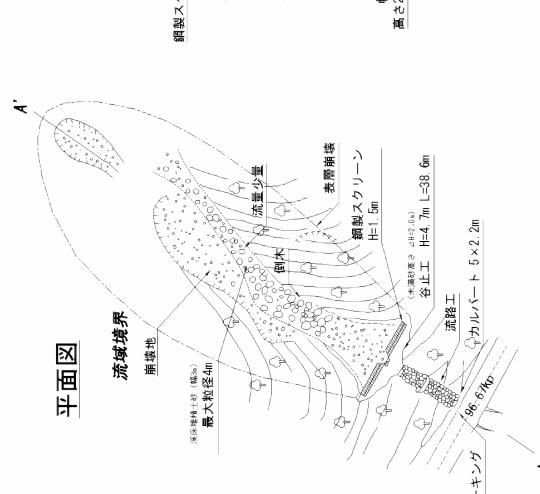
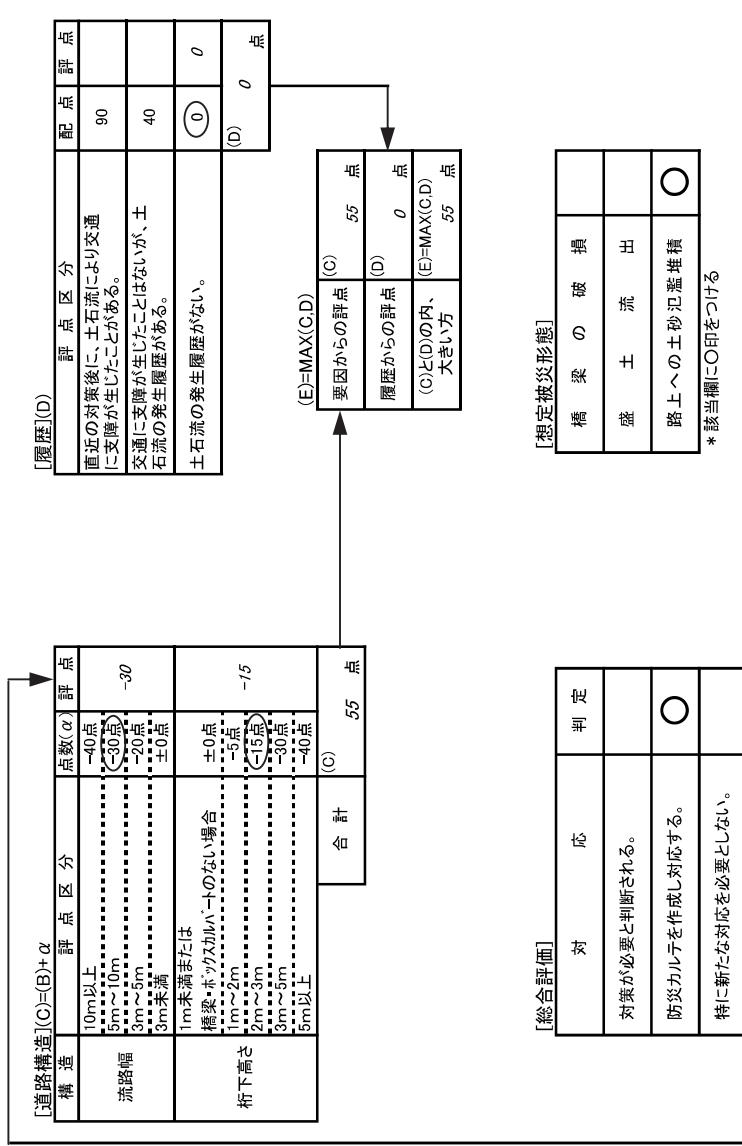
管 理 機 関 名		○ ○ 地方整備局	
		○ ○ 国道事務所	
施設管理番号	N * * * E 0 0 / 点検対象項目	土石流	路線名
事業区分	(<input checked="" type="checkbox"/> 有料 道路種別 一般国道(指定区間)	現道・旧道区区分	一般国道* * 号
事前通行規制区分別指定期	(<input checked="" type="checkbox"/> 通行・特殊・無)	所在地	○○都○○町字* *
スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)		位置目印	距離標(自) 両端に矢印を示すマーキング
		北緯	9 6 6 6 0 0 9 6 6 6 0 0 7 0 7 0 上・下・他 延長 10 m
		東経	35° 34' 54.0" 137° 33' 40.0" 世界測地系
		該当	<input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/> 人跡線 <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 迂回路 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 緊急輸送道路区分
		位置図	(縮尺1/25,000)
			
			
			
<p>特記事項</p> <p>点検実施:H * 年 * * 月 * * 日 天候:(晴・曇・雨)</p> <p>調査方法:地表踏査 目視点検</p> <p>所 考: 本線から約30m上流の谷止工(h=4.7m)は、溝砂が発生にある。現状では、谷止工の上部(評価理由)に高さ1.5mの鋼製スクリーンが設置されているが、谷頭部での崩壊が頻発するため、防災カルテを作成し定期的に点検することが望ましい。</p>			
<p>被 災 覆 盤</p> <p>有 (1. 被災履歴記録表参照 2. 詳細不明) (H8年度以降)</p> <p>重複点検対象項目</p> <p>対応施設管理番号:</p> <p>有 * <input checked="" type="checkbox"/> 落石・崩壊・岩盤崩壊・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・地吹雪・その他</p> <p>平成8年度点検結果</p> <p>評点(77点)総合評価:該当が必要とされる防災カカルテを作成・対応する特に対応する必要がない</p> <p>平成18年度点検結果</p> <p>評点(78点)総合評価:対策が必要と判断される防災カカルテを作成し対応する特に対応する必要がない</p> <p>予想災害規模</p> <p>土石流による通行止め</p> <p>工種:のり替工 その他: (崩壊)</p> <p>想定対策工</p>			

表-5.5.3 安定度調査表(土石流)の記入例

[要因](A)		[対策工](B)	
項目	要因	評点	評点
渓流の特性	発生流域面積 渓床未勾配15°以上の 渓床或面積	0.50km ² 以上 0.15km ² 以上0.50km ² 未満 0.15km ² 未満	10 8 4 10 10 10 10 10 10 10
	最急渓床勾配	40°以上 30°以上40°未満 30°未満	10 5 0 10 10 10 10 10 10 10
	斜面勾配が30°以上 の斜面の面積	0.20km ² 以上 0.08km ² 以上0.20km ² 未満 0.08km ² 未満	8 6 2 8 8 8 8 8 8 8
	草地及び灌木・樹高 10m程度以下,の占 める面積	0.20km ² 以上 0.02km ² 以上0.20km ² 未満 0.02km ² 未満	4 0 4 0 4 0 4 0 4 0
	不安定な土砂を伴う 土工事の有無	有り なし	5 0 5 0 5 0 5 0 5 0
	新しい龜裂、滑落 崖の有無	有り なし	5 0 5 0 5 0 5 0 5 0
	比較的規模の大き い崩壊履歴	有り なし	10 0 10 0 10 0 10 0 10 0
	合計	(A)	26
	評点	(56)	点
	配点	(10)	点



注)()は各項目の満点を示す。
該当する場合は回答欄に○印をつけると共に点数を記入する。
不明な場合は中間的な値を探用する。

表-5.6.2 管所別記録表(盛土)記入例

管 球 機 関 名		○ ○ 地方整備局 ○ ○ 国道事務所	
管 球 機 関 コ ー ド		* * * * *	
施設管理番号	N * * * F 0 0 / 点検対象項目	路線名	距離標(自) 西端に矢印を赤ハマキシグ 北緯 34° 39' 100"
事業区分	一般国道	位置目印	東経 122° 11' 37.0"
事前通行規制区分指定	有(通行特権無)	該当手続専 八人踏線	緊急輸送道路区分 ○無
スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)			
<p>特記事項</p> <p>点検実施:H * 年 * * 月 * * 日 天候:(晴・曇)雨</p> <p>調査方法:地表踏査、目視点検</p> <p>所見: 高さ25mに及ぶ盛土で、法縫やコンクリート擁壁等、新たな対策が施工されている。起点側に旧対策の法縫部が残っており、変状が見られる。この部分の補修を行うのが望ましい。継続的な点検を行う必要がある。</p> <p>(評価理由) 対策の法縫部が残っており、変状が見られる。この部分の補修を行うのが望ましい。</p> <p>想定対策工 工種:コンクリート 改付工 その他:</p>			
<p>被災履歴 (1. 被災履歴記録表参照 2. 詳細不明:) ○ (H8年度以降)</p> <p>重複点検対象項目 対応施設管理番号:</p> <p>有(無) 落石・崩壊・岩盤崩壊・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・橋梁・地吹雪・その他</p> <p>平成8年度点検結果 評点(77点) 総合評価:未達成(未了・施工中)</p> <p>平成18年度点検結果 評点(30点) 総合評価:対策が必要と判断される延びカットを作成し対応する特に新たに対応を必要としない</p> <p>予想災害規模 のり肩部の小崩壊500mm程度</p>			